



# Flash News

三重大学

第88号

## 目次

- 三重大学特別企画サッカー-日本代表前監督岡田武史氏「トークセミナー」
- 平成22年度大学改革シンポジウム「地域の活性化と男女共同参画の推進」
- 第4回三重大学先端研究シンポジウム「環境・自然を考える最先端研究」
- ISSC（国際社会科学評議会）「国際科学シンポジウム」
- 第7回中学校技術・家庭科創造アイデアポットコンテスト三重県大会
- 人文学部で外交講座「日本の領土」
- 日本学術会議中部地区学術講演会
- スペイン・ウエルバ大学（UJI）と遠隔交流授業を実施
- 附属特別支援学校校外実習
- 「青少年のための科学の祭典」第8回三重大学大会
- 平成22年度三重大学総合防災訓練
- U野球選手が附属病院を訪問

## 三重大学特別企画サッカー-日本代表前監督岡田武史氏「トークセミナー」



12月12日、講堂において、岡田武史サッカー日本代表前監督による標記トークセミナーが開催されました。地域貢献と地域の方々の生涯学習を目的とした本特別企画は、教育学部の杉田正明准教授が日本代表チームに高地トレーニングの専門家として帯同したことが縁で実現しました。岡田氏は、ワールドカップ南アフリカ大会で日本チームをベスト16に導いたチームマネジメントやこれまでの体験を通じた生きる力など、「最初から諦めたら何も起こりません。今、自分に何ができるかをよく考え、諦めずに挑戦してほしい。」と熱く語りました。参加者約1,600人は、岡田氏の不屈の生きる姿勢にとっても感動していました。

## 平成22年度大学改革シンポジウム「地域の活性化と男女共同参画の推進」

12月11日、講堂において、(社)国立大学協会、三重県との共催で男女共同参画推進の方向性や具体的方策の最新情報を共有するとともに、多様な主体との連携・協働による地域の活性化に繋げることを目的として、シンポジウムを開催しました。基調講演（板東久美子文部科学省生涯学習政策局長）、パネルディスカッション、(独)国立女性教育会館・三重労働局・三重県および県内市町や男女共同参画知事表彰企業等の約30ブース展示など、総勢525名が参加し、男女共同参画をキーワードに熱気のこもった有意義な1日となりました。



板東久美子局長

## 第4回三重大学先端研究シンポジウム「環境・自然を考える最先端研究」

12月9日、都市センターホテル（東京）で標記シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、内田淳正学長の主催者挨拶、関 荘一郎環境省水環境担当審議官による来賓挨拶の後、(株)小松製作所(コマツ)の野路國夫社長による「環境技術と企業活動」と題した特別講演が行われました。引き続き、「カーボンフリー大学を目指して」と「自然と共に生きる医療」をテーマに、本学の教員（地域イノベーション学研究科：坂内正明教授 工学研究科：前田太佳夫教授、今西誠之准教授 医学系研究科：水谷 仁教授、湯田厚司准教授、保健管理センター所長・住田安弘教授）から最新の研究活動と社会貢献活動の紹介があり、約200名の参加者から高い評価をいただきました。

## ISSC（国際社会科学評議会）「国際科学シンポジウム」

12月10日～12日、ユネスコに本部をおく研究機関で、世界の社会科学系国際学会が所属するISSC（副会長：児玉克哉教授・人文学部）の総会が、日本（名古屋）で初めて開催されました。12月13日～14日には、愛知大学車道キャンパスにてISSC、CIPSH（国際哲学・人文学会議）と本学共催の標記シンポジウムを開催しました。総会で採択された「愛知アピール」は、「科学は金儲けのためではなく、幸福のために使われる道具である」と表明し、社会学、法学、経済学などの社会科学系研究者が連帯して、人間性回復の環境をつくる必要を呼びかけました。2日間で300名の参加者があり、盛会のうちに終了しました。

## 第7回中学校技術・家庭科創造アイデアロボットコンテスト三重県大会

11月13日、本学第一体育館で三重県中学校技術・家庭科教育研究会主催の標記大会が開催されました。教育学部生が授業（魚住明生教授・教育学部）の一環として大会運営を支援しました。県内の8中学校から72チーム、161名の中学生が参加し、小学生向けのロボット教室も開かれ、終日体育館はロボット一色で賑わいました。この大会で選ばれた附属中を含む4中学校6チームが12月4日に名古屋で開催された東海北陸大会に出場、三重県から高田中1チームが全国大会に出場することとなりました。



## 人文学部で外交講座「日本の領土」

11月16日、外務省国際法局国際法課課長補佐の尾崎壮太郎氏を講師に、外交講座が開催されました。これは、外務省が大学生・院生を対象に最新の国際情勢や外交問題について理解を深めるために実施されたものです。「領土とは何か」といった基本的なことから、現実に日本とその周辺国との間で見解を異にする問題等について詳しく説明がありました。最近、特に注目されているテーマであることから、学生から活発に質問や意見が出されました。

## 日本学術会議中部地区学術講演会

11月19日、メディアホールにおいて、標記学術講演会を開催しました。内田淳正学長による挨拶の後、「水循環・水再利用技術と新しい科学と技術（大垣眞一郎副会長・日本学術会議）」、「YUBAメソッドを生み出した応用科学と基礎科学（弓場徹教授・教育学部）」、「高性能蓄電池の現状と将来（武田保雄教授・工学研究科）」の3講演がありました。参加した一般市民や学生、教職員、学術会議委員の総勢100名は、熱心に聴き入っていました。

## スペインジャウメプリム大学（UJI）と遠隔交流授業を実施



11月25日、教育学部の遠隔授業教室で英語科の学生11人と、UJIの英語専攻生10人が参加し、初めてのビデオ会議（VC）を用いた遠隔授業が行われました。共通テーマ「社会と文化」と独自テーマについて、発表と質疑応答が行われました。第2外国語として英語を学ぶ学生同士のVCであり、充実した内容となりました。天津師範大学から招いた張建梓(Zhang Jianzi)教育学部特任講師、同大学のダブルイグリー生らが見学し、同席した国際交流担当の松岡 守理事から激励の言葉がありました。

## 附属特別支援学校校外実習

11月22日～26日、総務部定型業務等運営・支援センターキャンパス整備室は、本学キャンパスにおいて附属特別支援学校高等部2年生8名の実習を行いました。この実習は、昨年からの職場での基本的な労働姿勢を養うことを目的に受け入れています。職員と生徒たちは、互いに緊張して離ればなれで作業をしていましたが、一緒に芝桜の苗植えをしたり、構内の落ち葉回収などの作業を体験するうちに話も弾み、交流も深まりました。今後も、継続して実習の場を提供していきたいと思っています。

## 「青少年のための科学の祭典」第8回三重大学大会

11月27日～28日、講堂で標記大会が開催され、32の出展ブースで実験や工作などが行われました。同時開催している本学と中部電力共催の「サイエンス on ステージ」も第4回目となり、2日間で9つのサイエンスショーが行われました。その様子をテレビにも映し出すことで、会場全体が一体となり、また、三重大学大会のオリジナルである「科学のうた」も祭典を盛り上げてくれました。2日間で約3,800名が参加し、会場は汗ばむほどの盛況でした。



## 平成22年度三重大学総合防災訓練

12月7日の「みえ地震対策の日」に、本学自然災害対策室(DiMO)の企画により災害対策本部要員の緊急参集伝達訓練および東海・東南海・南海地震が連動し、同時に発生した場合を想定して、災害対策本部運営図上訓練ならびに各学部等の現地(実動)訓練を行いました。緊急放送システムを活用した津波避難訓練、応急救護所開設・負傷者搬送訓練等を総合的に実施して、巨大地震発生時の対応能力の向上を図るとともに、危機管理マニュアルの実効性等を検証することができ、極めて有意義な訓練となりました。



## 野球選手が附属病院を訪問

12月9日、中日ドラゴンズの浅尾拓也投手(写真中央)と小山桂司選手(写真右)が附属病院を訪れ、臨床講義室でトークショーが行われました。集まった250名を超える入院患者およびその家族、病院スタッフからマウンドに上がる時の闘志についてなど、様々な質問が寄せられました。その後、小児科病棟で子どもたちを激励し、記念撮影を行いました。子どもたちはグラブやボールにサインをもらい、「ありがとう」とお礼を言って目を輝かせて喜んでいました。

